

## 障がいのある方への就労支援

地域で自立した生活を送る環境づくりを目指して

### 就労移行支援事業所「工房つばさ」の支援事例

「就労移行支援事業」とは、一般就労を目指す障がい者に対し、就職に向けた訓練を提供するサービスです。市内では工房つばさやアクション下野が行っており、今回は工房つばさの取組みを紹介します。

#### ■「工房つばさ」での基本的訓練

施設内での作業のほか、外部販売や施設外実習（高齢者施設でのベトナムーキング、公園の点検業務等）に参加します。その他、一般就労に必要なビジネスマナーの授業、金銭管理の訓練、公共の交通機関の利用訓練等を随時取り入れています。

#### ■一般就労へ向けた取組

訓練がある程度達成できたら、ハローワークに登録し、職場体験実習やトライアル雇用につなげます。また、障害者就業・生活支援センターにも登録し、就職後の定着支援を合同で行います。

#### ■就労実績や職場定着の状況

大手家具メーカーや自動車販売店、鋳造工場、老人福祉施設等に就職。今もうまく継続している方と、一部職場での人間関係を築けず別の企業に転職した方もいます。

### ■Kさん（20代知的障がい）への就労支援

Kさんは工房つばさではパン作りの工程のうち、技術を要する機械操作を担当し、また販売活動やベトナムーキングではリーダーとして、仲間を引っ張っていました。この秋、老人福祉施設に就職し、主にベトナムーキングや洗濯等のリネン業務を行っています。「緊張するけど楽しいです。将来的には介護の仕事も手伝いしたいです。」と意欲的な姿勢で取り組んでいます。

施設の就労支援員は、Kさんの周囲への気遣いを優先する性格や得意なこと、苦手なことを関係者間で共有し、一日も早く職場に慣れ、Kさんが自分らしく働ける環境づくりを目指し支援を行っています。



丁寧に仕上げることを心がけています

下野市地域自立支援協議会就労部会では、障がい者の「働く」をテーマに調査・活動をしています。今回、就労支援を受けながら、一般企業へ就職した障がい者の事例を紹介します。

### ■県南圏域障害者就業・生活支援センター「めーぷる」の支援事例

「障害者就業・生活支援センター」は、障がいのある方の身近な地域において、雇用、保健福祉、教育等の関係機関の連携拠点として、就業面及び生活面における一体的な相談支援を実施しています。

#### ■「めーぷる」の支援内容

就業及びそれに伴う日常生活上の支援を必要とする障がいのある方に対し、窓口での相談や職場・家庭訪問等の支援を実施しています。

支援内容は、就職希望者や既就職者の状態や希望によって変わります。就職に向けた訓練が必要な方にはビジネスマナーの習得や日常生活の調整を行う訓練先の斡旋を行います。また、求職中の方には、職業のマッチングや就職面接の同行等を行います。就職してからも、必要に応じて職場訪問を行い、相談支援等を実施しています。生活面については、生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言を行い、安定した就労生活が送れるよう支援しています。

### ■Sさん（30代男性精神障がい）への就労支援

Sさんは、病気があることを隠して就職しますが、長続きせず離職を繰り返していました。しかし精神障害者保健福祉手帳の取得を機に、病気を隠さずに働くことを決意し、現在は大手企業の食堂の厨房で主に洗浄業務を行っています。

洗浄業務が忙しくなると「もたもたするな！」と執拗に幻聴が聞こえ苦しくなり、仕事が出来ているかどうか不安になってしまいうこともあったのですが、職場では、体調にに応じて通院等について細やかな勤務調整の配慮がなされています。

仕事も4年目を迎え、継続した就労が自信につながっています。1日4時間という短時間の勤務ではありますが、目標であった一人暮らしを実現し、今後は婚活に向けてアルバイトを充実させたいと頑張っています。

#### ■就労部会コメント

働くことを希望する障がいのある方たちが、自分にあった職場に就き、活き活きと働くことができている。今後も地域で自立した生活ができるよう応援していきます。

文責 鱒淵泰子・梁島和由